令和８年度

履修の手引き

弘前大学大学院保健学研究科

保健学専攻（博士後期課程）

もくじ

Ⅰ．弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士後期課程）について ····· 1
1. 基本理念
2. 教育目標
3. 教育課程の編成・実施
4. 学位授与の方針
5. 教育方法と指導体制

Ⅱ．教育カリキュラムについて ····· 4
1. 修了要件 ····· 4
2. 授業科目・履修方法・研究指導等 ····· 4
1) 授業科目について
2) 履修方法について
3) 履修モデルについて
3. 指導教員 ····· 5
4. 授業の実施方法 ····· 5
5. 履修科目登録について ····· 6
1) 履修科目登録手続き
6. 成績評価・単位認定 ····· 7
7. 学位論文審査基準 ····· 7
8. その他 ····· 8

Ⅲ．令和８年度保健学研究科学年暦 ····· 8

Ⅳ．研究指導スケジュール ····· 9

Ⅴ．被ばく医療コースについて ····· 10

＜資料１＞　保健学研究科規程別表 ····· 11
＜資料２＞　各領域の履修モデル ····· 13

Ⅰ．弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士後期課程）について

1. 基本理念

保健学は，人間を身体的・精神的・社会的に全人的な存在としてとらえ，人々の健康について探究し，健康と福祉の向上に寄与する学問領域です。弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士後期課程）では，この学際的な学問領域を進歩・発展させるとともに，保健学の領域における教育と研究を通して，その成果を社会に還元し，人類の健康と福祉の向上に寄与することを基本理念とします。

2. 教育目標

① 研究者としての能力開発

保健学に係わる学際的研究をエビデンスの探究という視点から専門の枠を超えて実践し，その結果を世界に向けて発信できる人材を育成します。

② 教育者の育成

大学及び大学院において教育指導に寄与でき，地域社会において科学的方法論に基づいた健康教育を実践できる人材を育成します。

③ 高度な専門知識・技術を身につけた指導者の育成

高度な専門知識と技術を身につけ，チームの指導者として課題を選択・研究し，その解明に寄与できる人材を育成します。

④ 地域保健医療活動推進能力の育成

地域保健活動の場において指導的役割を果たす立場の者を教育・指導・支援できる人材の育成を目指します。

3. 教育課程の編成・実施

（1）共通科目

共通科目は、エビデンスの探求と専門の垣根を越えた連携・協働の意義や方法論の修得を目的としています。

（2）専門科目

専門科目は、博士論文作成に向けた一貫した指導を目的とする所属分野の特講・特講演習・特別研究で構成しています。

（3）成績評価

単位修得の認定は試験によるものとしますが，科目によっては，平常の成績又は報告書等の結果により認定します。授業科目の履修成績は，成績評価基準に基づき厳密に評価します。

4. 学位授与の方針

保健学研究科（博士後期課程）では、人材養成の観点に立った本研究科の教育目標に沿って定めた学位授与の方針（ディプロマポリシー）を修得した者に対して、学位（保健学）を授与します。

【看護学領域】

１．知識・理解の修得

・看護学領域に関する高度な知識と技術の体系化

・看護学領域における教育方法・研究方法に関する知識と技術

・保健・医療・福祉分野における倫理およびマネジメントに関する知識と技術

・関連する他領域との連携に必要な基礎的知識と技術

２．当該分野固有の能力の修得

・看護学領域における独創的・学際的な研究を自律的に実践し、その成果を社会に還元し国際的に発信する能力

・看護学領域における高度専門職業人に対して、教育・研究指導を実践する能力

・看護学・保健学の“エビデンス”に基づいた高度な医療実践を行う能力

・解決すべき課題を先見的に見出し、倫理的・科学的に分析し、創造的に解決する能力

・保健・医療・福祉の他職種と協働し、医療チームの指導的役割を果たす能力

３．汎用的能力の修得

・看護学領域の教育・研究者として自律的に活動し、社会的責務を果たす能力

・高度専門職業人として必要なコミュニケーションスキルや論理的思考能力

・看護学領域における研究成果を通して、看護学・保健学の学問的基盤の確立と発展に寄与する能力

【放射線技術科学領域】

１．知識・理解の修得

・放射線技術科学領域に関する高度な知識と技術の体系化

・放射線技術科学領域における教育方法・研究方法に関する知識と技術

・保健・医療・福祉分野における倫理およびマネジメントに関する知識と技術

・関連する他領域との連携に必要な基礎的知識と技術

２．当該分野固有の能力の修得

・放射線技術科学領域における独創的・学際的な研究を自律的に実践し、その成果を社会に還元し国際的に発信する能力

・放射線技術科学領域における高度専門職業人に対して、教育・研究指導を実践する能力

・科学的根拠に基づいた保健学を実践・発展させてゆく上で不可欠な，未解明の“エビデンス”を探究・蓄積できる能力

・エビデンスの探究に向け、学際的連携や多専門職による職種を越えた協働・研究を展開し、自らの専門性を深化・発展させる能力

３．汎用的能力の修得

・放射線技術科学領域の教育・研究者として自律的に活動し、社会的責務を果たす能力

・高度専門職業人として必要なコミュニケーションスキルや論理的思考能力

・放射線技術科学領域における研究成果を通して、人間の“生命活動”に係わる生体情報や生体機能について、科学的解析手法を駆使してエビデンスを追究し、放射線技術科学・保健学の学問的基盤の確立と発展に寄与する能力

【生体検査科学領域】

1．知識・理解の修得

・生体検査科学領域における教育･研究者として必要な高度専門知識
・生体検査科学領域における国際的スタンダードとなっている知識や技術
・学際的な研究に対応できる知識や技術

2．当該分野固有の能力の修得

・種々の研究成果について客観的かつ批判的に評価できる能力
・生体検査科学領域における教育･研究を指導できる能力
・科学的根拠に基づいた保健学を実践・発展させていく上で不可欠な、未解明の“エビデンス”を探究・蓄積できる能力
・“エビデンス”の探究に向けて、学際的連携や多専門職による職種を越えた協働
・研究を展開し、自らの専門性を深化・発展させる能力

3．汎用的能力の修得

・自立した教育･研究者として社会に貢献できる能力
・英語によるコミュニケーション能力を涵養し、国外研究者と討論できる能力
・高い倫理観と強い責任感を有する生命科学者として、研究成果を国際的に発信できる能力

【総合リハビリテーション科学領域】

1．知識・理解の修得

・リハビリテーション科学領域に関する高度な知識と技術の体系化
・リハビリテーション科学領域における教育方法・研究方法に関する知識と技術
・保健・医療・福祉分野における倫理およびマネジメントに関する知識と技術
・関連する他領域との連携に必要な基礎的知識

2．当該分野固有の能力の修得

・リハビリテーション科学領域における独創的･学際的な研究を自律的に実践し、その成果を社会に還元し国際的に発信する能力
・リハビリテーション科学領域における高度専門職業人に対して、教育・研究指導を実践する能力
・リハビリテーション科学の“エビデンス”に基づいた高度な医療実践を行う能力
・解決すべき課題を先見的に見出し、倫理的・科学的に分析し、創造的に解決する
・保健・医療・福祉の他職種と協働し、医療チームの指導的役割を果たす能力

3．汎用的能力の修得

・リハビリテーション科学領域の教育・研究者として自律的に活動し、社会的責務を果たす能力

・高度専門職業人として必要なコミュニケーションスキルや論理的思考力を持ち、プレゼンテーション能力

・リハビリテーション科学領域における研究成果を通して、保健学の学問的基盤の確立と発展に寄与するための技術と能力

5. 教育方法と指導体制

履修指導・研究指導は，学生の所属領域の指導教員及び副指導教員（領域を問わない）の複数体制で行います。

指導教員は，特別研究及び専門領域の研究課題について，履修計画に沿って学位論文の作成指導を行います。副指導教員は，インタープロフェッショナルな視点で学生の研究活動に参画し，指導・助言を行います。

Ⅱ．教育カリキュラムについて

1. 修了要件

本課程に 3 年以上在学し，12 単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。学位論文については「弘前大学学位規程」を参照してください。

2. 授業科目・履修方法・研究指導等

1) 授業科目について

授業科目は，共通科目 2 単位，特講 2 単位，特講演習 2 単位，特別研究 6 単位から構成されます。（保健学研究科規程別表は 11 ページに示されていますので参照してください。）

2) 履修方法について

- 必修，選択を合わせ計 12 単位以上修得します。
- 必修科目：共通科目から 2 単位（被ばく医療コースは，被ばく医療コース共通科目から 2 単位）を履修します。
  所属領域の特講 2 単位，特講演習 2 単位，特別研究 6 単位を履修します。
- 選択科目：本課程で開講する専門科目の特講・特講演習から選択します。
- 履修科目については，すべて指導教員と相談の上決定します。

＜被ばく医療コース＞

- 上記のとおり 12 単位以上を修得します。
- 博士論文テーマは，放射線に関連したもの

【1 単位の修得に要する授業時間】

講義・演習：15～30 時間

実技・実習：30～45 時間

※「授業時間」については，本学では 1 回の授業時間（90 分）を 2 時間とみなしています。

3)履修モデルについて

履修科目を決める際の参考例として，各領域の履修モデルは下記のとおりです。

（長期履修制度を利用した履修方法については，指導教員に相談してください。）

①看護学領域での履修例１ …… 13 ページ
②看護学領域での履修例２ …… 14 ページ
③放射線技術科学領域での履修例１ …… 15 ページ
④放射線技術科学領域での履修例２ …… 16 ページ
⑤生体検査科学領域での履修例１ …… 17 ページ
⑥生体検査科学領域での履修例２ …… 18 ページ
⑦生体検査科学領域での履修例３ …… 19 ページ
⑧総合リハビリテーション科学領域での履修例１ …… 20 ページ
⑨総合リハビリテーション科学領域での履修例２ …… 21 ページ
⑩総合リハビリテーション科学領域での履修例３ …… 22 ページ
⑪総合リハビリテーション科学領域での履修例４ …… 23 ページ
⑫被ばく医療コース（看護学領域）での履修例 …… 24 ページ
⑬被ばく医療コース（放射線技術科学領域）での履修例 …… 25 ページ

3. 指導教員

学生の研究指導のため，学生ごとに指導教員をおきます。

指導教員は学位論文の作成，授業科目の学修・履修，休学，退学，その他在学中の学生生活等に係る指導・助言を担当します。

4. 授業の実施方法

- 授業は原則として月曜から金曜の昼間に開講しますが，社会人学生の履修の便宜を図るため，大学院設置基準14条特例の適用により，夜間その他の特定の時間または時期にも開講します。
- 社会人以外の学生も，担当教員の許可により，夜間その他の特定の時間または時期に開講され

る授業科目を履修することができます。

- 遠隔地に居住しているなどの理由により弘前大学本町キャンパスに来られない学生等を対象として，Microsoft Teams を利用した双方向通信方式による遠隔授業を実施しています。
  ただし，授業科目によっては遠隔授業を実施できない場合もありますので，注意してください。

5. 履修登録について

履修を開始するにあたり，学生は指導教員の指導の下，履修しようとする授業科目を登録する必要があります。履修登録を行わないまま授業を受けても，単位を修得することはできませんので注意してください。

1) 履修~~科目~~登録手続き

- 指導教員の指導に基づいて，時間割及び「履修の手引き」に掲載されている修了要件，履修表，履修モデル等を参照し，履修を希望する科目を選んでください。
- 授業担当教員へ，履修について許可を得てください。（都合により，開講曜日・開講時間の変更や，閉講する場合があります）
- 許可を得た後，定められた期間内に履修登録をしてください。履修登録変更期間を過ぎてからの追加・取りやめは，原則として認められません。
- 履修登録は，「CAMPUS SQUARE」より WEB 上で行います。詳細については，大学院保健学研究科 HP 内「大学院生向け資料」の「CAMPUS SQUARE 操作マニュアル」を確認してください。
- 後期分については，後期授業開始前までに学務グループより連絡します。

令和 8 年度前期

・履修登録期間※新入生ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ終了後：4 月 7 日（火）～4 月 10 日（金）17：00
・履修登録変更（追加）期間：4 月 13 日（金）～4 月 24 日（金）17：00
・履修取りやめ期間：4 月 27 日（月）～5 月 1 日（金）17：00

・大学院保健学研究科 HP
https://ghs.hirosaki-u.ac.jp/

・「CAMPASU SQUARE」WEB サイト
https://gakujoweb.hirosaki-u.ac.jp/campusweb/

6. 成績評価・単位認定

◆ 成績評価基準

- 授業科目の単位認定は，筆記（口述）試験もしくはレポートにより行います。
- 試験は授業科目担当教員により必要に応じて適宜実施されます。
- 特講演習の成績は2年次9月に開催される「研究経過報告会」の発表により評価されます。
- 各授業科目の成績は，秀・優・良・可・不可の５種とし，秀・優・良・可を合格とします。

評 価	秀	優	良	可	不可
評 点	100点～90 点	89点～80 点	79点～70 点	69点～60 点	59点以下

◆ 履修成績に対する異議申立て

- 授業科目の履修成績に異議等があるときは，成績通知開始日を含めて2週間以内に，保健学研究科学務グループに「授業科目の履修成績に対する質問書」（様式任意）を提出してください。学務グループから授業科目を担当した教員（以下「担当教員」という。）に確認します。
- 担当教員に確認した授業科目の履修成績に関する質問書についての説明を受けても，なお異議があるときは，研究科長に対して，「授業科目の履修成績に対する異議申立書」を提出することができます。
- 研究科長は，必要に応じて，学事委員会に調査を命じます。
- 学事委員会は，学生及び担当教員から意見を聴取するなどして調査を行い，その調査結果を，研究科長に報告します。
- 研究科長は，担当教員に対して，授業科目の履修成績に対する異議申立てへの回答内容を報告します。
- 研究科長は，学事委員会における調査結果を踏まえ，学生に対して，授業科目の履修成績に対する異議申立てへの回答を行います。

7. 学位論文審査基準

学位論文は，以下の審査基準により評価を行います。

1．学位審査論文において，研究テーマにかかわる研究を系統的，かつ過不足なく記述出来ていること。

2．学位審査論文に，当該専門分野における新たな知見や観点が何らかの形（研究方法，研究結果等）で含まれていること。

3．申請者が研究内容の意義，結果について十分に理解していることを，学位審査論文及び学位審査会において的確に示していること。

4．申請者が独立した研究者として研究を遂行できる能力と，高い倫理観を身につけていることが，学位審査論文及び学位審査会において判断され得ること。

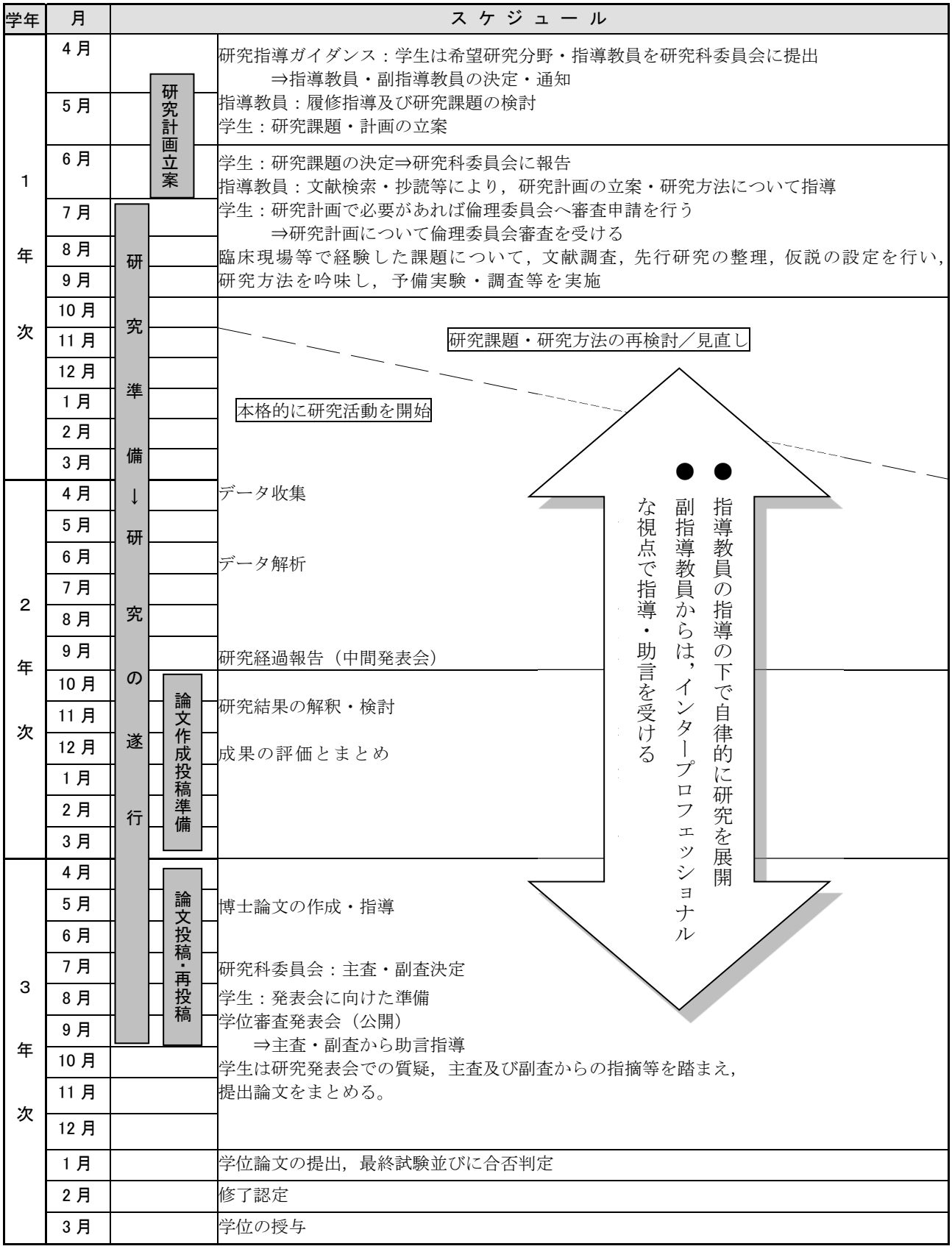
8. その他

- 授業，その他学生に対する連絡は，CAMPASU SQUARE 掲示板及び E-mail 等により行います。特に弘大メールアドレス（～@hirosaki-u.ac.jp）への連絡は，見落としがないよう注意してください。
- **2 年次 9 月に開催される「研究経過報告会」，3 年次に開催される「学位審査会」「学位論文発表会」は原則として遠隔での発表を認めていません。来学することを前提にあらかじめスケジュールの調整をしてください。**

Ⅲ．令和８年度保健学研究科学年暦

◆ 別紙「授業日程」と「授業計画（行事予定）」を参照してください。

Ⅳ. 研究指導スケジュール



Ⅴ．被ばく医療コースについて

博士後期課程被ばく医療コースの人材育成の目的，到達目標は以下のとおりです。

なお，被ばく医療コースを修了した者のうち，本研究科博士前期課程被ばく医療コースを修了済みの者に限り，被ばく医療指導士（Senior Radiological Health Scientist）の称号が付与されます。

また，被ばく医療コースには，定員や人数制限等の定めはありません。

ただし，被ばく医療指導士の博士論文テーマは，放射線に関連したものとなります。

＜教育目的＞

放射線にかかわる緊急被ばく医療における高度な教育者および研究者を養成し，本分野の学問の発展に貢献できる人材を育成する。

＜到達目標＞

① 緊急被ばく医療に関する高度な専門的知識と技術を習得する。

② 緊急被ばく医療分野において求められる研究手法を習得し，これを展開できる。

資料１　保健学研究科規程別表

別表第２－１　博士後期課程の授業科目，単位数及び年次別配当（第９条第２項関係）

【共通科目】

授業科目	単位数		１年次		２年次		３年次		合計単位	備考
	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
インタープロフェッショナルワーク論	1		1						1	履修方法 ２単位修得すること。
教育・研究者育成コースワーク	1		1						1	
計	2		2						2	

【専門科目】

領域	授業科目	単位数		１年次		２年次		３年次		合計単位	備考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
看護学	臨床実践看護学特講		2		2					2	履修方法 所属する領域から特講２単位，特講演習２単位及び特別研究６単位を含め１０単位以上修得すること。
	地域生活支援看護学特講		2		2						
	看護学特講演習	2				2				2	
	看護学特別研究	6				6				6	
	合計	8	4		4	8				12	
放射線技術科学	放射線技術科学特講	2			2					2	
	放射線技術科学特講演習	2				2				2	
	放射線技術科学特別研究	6					6			6	
	合計	10			2	2	6			10	
生体検査科学	生体検査科学特講	2			2					2	
	生体検査科学特講演習	2				2				2	
	生体検査科学特別研究	6					6			6	
	合計	10			2	2	6			10	
総合リハビリテーション科学	リハビリテーション教育学特講		2	2						2	
	リハビリテーション教育学特講演習		2		2					2	
	リハビリテーション科学特講	2			2					2	
	リハビリテーション科学特講演習	2				2				2	
	リハビリテーション科学特別研究	6					6			6	
	合計	10	4	2	4	2	6			14	

別表第２－２　被ばく医療コースの履修指定科目，単位数及び年次別配当

授業科目	単位数		１年次		２年次		３年次		合計単位	備考
	必修	選択	前期	後期	前期	必修	選択	前期		
先進被ばく医療	1		1						1	履修方法 ・被ばく医療コース共通科目については，別表第２－２に定める２科目２単位修得すること。 ・専門科目については，別表第２－１に定める所属する領域から特講２単位，特講演習２単位及び特別研究６単位を含め１０単位以上修得すること。
教育・研究者育成コースワーク＊	1		1						1	
計	2		2						2	

＊印の科目は共通科目から被ばく医療指定科目として再掲

資料２　弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士後期課程）履修モデル

履修例－１－

看護学領域

看護学領域の履修例１

１．対象学生

本学修士課程から進学し，修了後看護系大学で教職に就くことを希望する学生

２．志望理由

看護系大学を卒業後３年間総合病院の神経科・精神科病棟で勤務後，本学修士課程に在学中である。勤務していた病棟で思春期の神経性食欲不振症患者の看護を数例経験し，予防策について研究したいと考え現在はボディイメージと食行動異常を中心とした研究を進めている。博士課程に進学して，修士課程での研究を更に発展させ，エビデンスに基づいた健康増進のための指導方法について研究を行う予定である。修了後は，看護系大学の教員を希望している。

３．研究課題

『思春期におけるボディイメージ・食行動異常に対する行動科学的アプローチに関する研究』

＜内容＞

修士課程の研究ではダイエット行動には痩せ志向が最も関与しており，現在体型の如何に関わらずダイエット行動が生起していることを究明した。また，性役割観との関連では痩せ体型に女性らしさを求め，ダイエットしていることも明確となった。食行動異常者の増加を防止するためには自己の体型をポジティブに評価させるための教育プログラムが早急に求められる。そこで，博士課程の研究ではダイエットによる生体機能への影響に着目し，定量的解析に基づいた行動科学的なアプローチを行う。

４．履修科目

科　目		授　業　科　目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び，将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育・研究者に求められる教育観や教育方法の在り方，エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	臨床実践看護学特講	2	食行動及び身体組成等の評価や個々の認知スタイル・行動特性に応じた健康増進のための効果的な支援方法について考究する。
		看護学特講演習（体型認識・食行動・身体組成の評価と健康増進のための支援）	2	研究課題の設定，文献検索及び方法論の選択，研究遂行のための手技等について修得する。特に国内外における体型認識（ボディイメージ）・食行動・身体組成の評価方法の検討や対象者個々の認知スタイルや行動特性に応じた疾病予防・健康増進のための教育方法や支援方法について探究する。
特別研究		看護学特別研究	6	研究課題のとおり
計			１２	

研究課題	思春期におけるボディイメージ・食行動異常に対する行動科学的アプローチに関する研究		
主指導教員	看護学領域担当教員	副指導教員	生体検査科学領域担当教員

履修例－２－

看護学領域

看護学領域の履修例２

１．対象学生

修士課程を修了した看護職者で，修了後は，臨床において指導的役割を果たしていくことを希望する現職者

２．志望理由

看護師免許取得後5年間，総合病院の慢性期病棟に勤務し，多くの壮・老年期にあるがん患者，脳血管障害患者，腎疾患患者，糖尿病患者等の看護を経験してきた。慢性疾患は長期の治療・自己管理が求められるが，長年習慣化されてきた生活習慣の改善・変更は容易ではない。修士課程では，脳血管障害の背景にある高血圧患者のセルフケアと心理状態について研究を行ったが，地域包括ケアが推奨されている今日，高齢の慢性疾患患者の生活に焦点をあてた在宅看護のシステムについて多面的な研究の必要性を実感し，博士課程への進学を希望した。修了後は，臨床において管理的な立場から患者指導を専門としていきたいと考えている。

３．研究課題

『脳卒中を発症した高齢患者の退院支援に関する研究』

＜内容＞

本研究では，脳卒中を発症した高齢患者が後遺症をもちながら地域で生活を続けていくための退院支援のあり方を明らかにすることである。脳卒中を発症した高齢患者がたどる多様な経過（転院，入所，自宅退院）に応じた退院支援の現状を調査し，インタープロフェッショナルワークの視点に基づき，今後の退院支援の在り方を構築，提案する。さらに，個別の退院支援計画の基に支援した事例の追跡調査により，その有効性を検証する。

４．履修科目

科目		授業科目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び，将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育･研究者に求められる教育観や教育方法の在り方，エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	地域生活支援看護学特講	2	地域包括ケアシステムの全体的理解と病院における在宅看護の役割について考察する。
		看護学特講演習	2	保健医療福祉，社会学における多方面からの文献を通して地域包括ケアシステムを推進するうえでの現状と課題，および将来的ビジョンを理解し，多角的に考える。
特別研究		看護学特別研究	6	研究課題のとおり
		計	１２	

研究課題	脳卒中を発症した高齢患者の退院支援に関する研究		
主指導教員	看護学領域担当教員	副指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員

履修例－３－

放射線技術科学領域

放射線技術科学領域の履修例１

１．対象学生

本学修士課程から進学し，修了後，放射線生物影響関連の教育・研究機関に就職を希望する学生

２．志望理由

放射線技術学専攻を卒業し，保健学研究科保健学専攻に在学中である。現在ヒト造血幹細胞の放射線感受性とサイトカインの作用に関する研究を行っている。

３．研究課題

『間葉系幹細胞の造血支持能を利用した放射線造血障害の再生』

＜内容＞

間葉系幹細胞は，骨髄や臍帯血中にごくわずかに存在する未分化の細胞で，増殖能と共に骨細胞，軟骨細胞，筋肉細胞，脂肪細胞等への分化能を有している。さらに，造血幹細胞の造血を支持・促進し，造血幹細胞移植時に生着促進・生着不全防止を目的に間葉系幹細胞の同時移植が行われ，効果を上げている。一方，造血・免疫システムは放射線や抗がん剤に対し極めて感受性が高いため，放射線や抗がん剤によるがん治療における副作用としてしばしば骨髄抑制が生じ，治療上の dose limiting factor となっている。即ち放射線被曝事故においても同様に，造血・免疫システムの維持・再生は生命活動や QOL の向上において最優先課題である。そこで，間葉系幹細胞の造血支持・促進能を利用することは，造血幹細胞を増幅して血球減少症回避を図る治療が可能となり，さらには血小板や好中球など特定の血球を特異的に増幅させることも可能となる。本研究では，放射線曝露が予想される場合や，放射線造血障害状態に陥った個体自身の造血幹細胞から，造血幹・前駆細胞の再生を想定して，間葉系幹細胞を用いた新たな細胞治療方法の開発を目指す。

４．履修科目

科　目		授　業　科　目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び，将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育・研究者に求められる教育観や教育方法の在り方，エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	放射線技術科学特講	2	造血幹細胞や造血前駆細胞の放射線感受性やサイトカインの作用に関する近年の国際動向や最新の知見，生体幹細胞を用いた細胞治療や再生医療の最前線について学ぶ
		生体検査科学特講	2	多専門職間のインタープロフェッショナルな連携を科学的に検証し，理論構築を通して，生活習慣病の予防を目的とした有効性と医療現場の現状を知る
		放射線技術科学特講演習（放射線や抗がん剤等について起因する細胞内外の変化について）	2	放射線等の生体外酸化ストレスに起因する細胞内外の変化，関与する種々の因子の作用メカニズムの評価・解析並びに新規因子の探索に係わる近年の国際動向や最新の論文に関する資料の講読を行う
特別研究		放射線技術科学特別研究	6	研究課題のとおり
計			１４	

研究課題	間葉系幹細胞の造血支持能を利用した放射線造血障害の再生		
主指導教員	放射線技術科学領域担当教員	副指導教員	生体検査科学担当教員

履修例－４－

放射線技術科学領域

放射線技術科学領域の履修例２

１．対象学生

医療機関で診療放射線業務に従事し，修了後は臨床において指導的役割を果たしていくことを希望している修士課程を修了した現職者

２．志望理由

医療機関で診療放射線業務に従事して大学院修士課程を修了し，診療及び研究に従事している。近年，画像診断装置の進歩は目ざましく，撮像の高速化や多様化が急速に進んではいるものの，様々な病態・疾患における検査モダリティーの選択やその最適な撮像方法という点ではまだ完全には確立されておらず，経験に基づいて有用と考えられる診療が行われているのが実情である。そこで博士課程に入学し，エビデンスに基づく，費用効果比も考慮に入れた，最適な撮像方法を確立することを目指し，修了後には診療やその後の研究および技師の指導に役立てたい。

３．研究課題

『頭頸部 MRA における撮像方法の最適化の検討および臨床的有用性に関する研究』

＜内容＞

MR 血管造影（MRA）は広く行われているものの，撮像方法も造影法・非造影法も含め複数あり，最適な撮像方法について血管狭窄ファントムを用いた基礎的実験で検討する。また，頭頸部 MRA は，脳血管障害の予防の観点から心臓血管手術の術前検索でも有用性が期待されている。手術前に頭頸部血管の検査を行い血管病変の有無により人工心肺使用の有無などの手術・治療方針が決定されることが多いが，この場合に検索を行わない場合と比較して生命予後が改善するかどうかを検討しエビデンスの創出を図る。

４．履修科目

<table>
<tr><th colspan="2">科　　目</th><th>授　業　科　目</th><th>単位</th><th>研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">講義・演習</td><td rowspan="2">共通科目</td><td>インタープロフェショナルワーク論</td><td>1</td><td>多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び，将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。</td></tr>
<tr><td>教育・研究者育成コースワーク</td><td>1</td><td>保健学領域における教育・研究者に求められる教育観や教育方法の在り方，エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td>放射線技術科学特講</td><td>2</td><td>MRA の撮像方法における最新の知見について理解し，検査に要する時間やコスト，さらにはエビデンスレベルを考慮した MRA の有用性について学ぶ</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門科目</td><td>放射線技術科学特講演習（悪性新生物等の X 線 CT・MRI 画像診断情報と生命予後）</td><td>2</td><td>造影法・非造影法も含めた様々な手法に基づく頭頸部 MRA の有用性に関する内外研究事例調査を，生命予後改善についてのエビデンスレベルを考慮して行い発表し，それと関連付けて研究課題を討論する</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別研究</td><td>放射線技術科学特別研究</td><td>6</td><td>研究課題のとおり</td></tr>
<tr><td colspan="3">計</td><td>１２</td><td></td></tr>
<tr><td>研究課題</td><td colspan="4">頭頸部 MRA における撮像方法の最適化の検討および臨床的有用性に関する研究</td></tr>
<tr><td>主指導教員</td><td>放射線技術科学領域担当教員</td><td>副指導教員</td><td colspan="2">放射線技術科学領域担当教員</td></tr>
</table>

履修例－５－

生体検査科学領域

生体検査科学領域の履修例１

１．対象学生

大学病院の産婦人科で不妊治療に従事し，修了後は指導的役割を果たすことを希望している現職者

２．志望理由

臨床検査技師の資格を有し大学院修士課程を修了した後，大学病院の産婦人科で胚培養士を目指しながら不妊治療に携わっている。排卵に向けた卵胞（丘細胞－卵母細胞複合体）の成熟には，細胞外マトリックス成分であるヒアルロン酸の合成が重要である。一方，精子のヒアルロニダーゼ（ヒアルロン酸分解酵素）活性は卵丘マトリックスの貫通とこれに続く透明体の分解に直接関与するため，受精能力に大きく影響していることが知られている。そこで，博士課程に進学し，排卵や受精におけるキーワードの一つであるヒアルロン酸の合成と分解の調節機構について研究し，不妊治療への応用を目指したい。

３．研究課題

『卵胞形成および受精におけるヒアルロン酸の合成と分解の調節機構に関する研究』

＜内容＞

マウスにヒアルロン酸合成酵素阻害剤／ヒアルロニダーゼ発現抑制剤を投与し，妊娠への影響を探る。一方，このマウスより丘細胞－卵母細胞複合体あるいは精子を分離し，これらのヒアルロン酸合成量及びヒアルロン酸合成酵素遺伝子の発現，あるいはヒアルロニダーゼ遺伝子の発現などの推移を調べる。さらに，これらに影響を与える因子を検索し，卵胞形成および受精におけるヒアルロン酸の合成と分解の調節機構を究明する。

４．履修科目

科　目		授　業　科　目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び,将来基礎研究と臨床現場との融合を担う人材育成に役立てる。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育･研究者に求められる教育観や教育方法の在り方,エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	生体検査科学特講	2	生体の構造と機能,恒常性維持機構およびその破綻によって生じる種々の病態，癌，白血病，糖尿病，動脈硬化，等について問題点や最新の知見及び方法論を学ぶ。
		生体検査科学特講演習（細胞及び細胞外マトリックス成分の機能・代謝機構）	2	細胞及び細胞外マトリックス成分の機能や代謝機構についての生化学，分子生物学的解析法を学び，実際に得られたデータの解析から理論的洞察を深め,エビデンスに基づいた論理的思考能力や判断力を養う。
特別研究		生体検査科学特別研究	6	研究課題のとおり
		計	１２	

研究課題	卵胞形成および受精におけるヒアルロン酸の合成と分解の調節機構に関する研究		
主指導教員	生体検査科学分野担当教員	副指導教員	生体検査科学分野担当教員

履修例－６－

生体検査科学領域

生体検査科学領域の履修例２

１．対象学生

本学修士課程から進学し，将来，生体検査科学領域における研究者としての業務に就くことを目標としている学生

２．志望理由

がんで死亡する患者は 2～3人に1人といわれるようになった。がん死から救うためには早期発見，早期診断と外科的切除が主流をなしている。がんの確定診断は病理専門医によってなされるがその数は年々減少し，逆に病理専門医にかかる負担は増強してきている。このような状況下で画像解析によるがんの自動診断に強い興味をもった。

３．研究課題

『がん細胞と正常細胞の鑑別可能な顕微鏡画像解析』

＜内容＞

がん細胞と正常細胞との鑑別は細胞の形状等の 2 次元情報によってなされている。がんの病理組織診断も癌取扱規約により 2 次元画像で行われているが近年提唱された 3 次元画像解析に基づくがんの診断における核膨隆サイン（NBS : Nuclear Bulging Sign）の画像解析に関するアルゴリズムの開発に関する研究を行い，がん細胞と正常細胞との鑑別を図る。

４．履修科目

科　目		授　業　科　目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び,将来基礎研究と臨床現場との融合を担う人材育成に役立てる。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育･研究者に求められる教育観や教育方法の在り方,エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	生体検査科学特講	2	正常細胞とがん細胞とについて核 DNA 量と核面積の測定, 紫外線顕微鏡画像取得, 各種腫瘍マーカー免疫染色等おける解析方法等を習得する。
		生体検査科学特講演習（核 DNA 量・面積測定法，紫外線顕微鏡の光学特性と癌の画像解析）	2	正常細胞とがん細胞との鑑別に必要な核 DNA 量と核面積の測定法の原理, 紫外線顕微鏡の光学特性と画像取得との関連, 画像解析による癌の自動診断に関するグループ分類を主体とした２次元パターン解析及び核膨隆サイン Nuclear Bulging Sign（NBS） を主体とした３次元 NBS 解析について理解する。
特別研究		生体検査科学特別研究	6	研究課題のとおり
		計	１２	

研究課題	がん細胞と正常細胞の鑑別可能な顕微鏡画像解析		
主指導教員	生体検査科学領域担当教員	副指導教員	生体検査科学領域担当教員

履修例－７－

生体検査科学領域

生体検査科学領域の履修例３

１．対象学生

病院に勤務しながら修士課程において腎不全の発生・治療に関する研究に取り組んでいる臨床検査技師で，本年度修了見込みの現職者

２．志望理由

この５年間で糖尿病患者数は50万人，糖尿病予備軍は200万人増加したと推定されている。日本では糖尿病患者の約95％が2型糖尿病である。腎不全の発生や治療に関する研究並びに治療を行っている病院に臨床検査技師として就職後，大学院修士課程に入学し，２型糖尿病自然発症モデルラットによる腎不全における病変特異的指標の検索をテーマに研究を行っている。現在，尿，血液サンプルの検索で極めて興味深いデータが得られていることから，修士課程修了後も引き続き博士課程に進学して研究を発展させ，紫外線顕微鏡，電子顕微鏡等を用いて病態を究明し，臨床応用に寄与したいと考えている。

３．研究課題

『２型糖尿病自然発症モデルラットにおける腎不全病変の特異的解析』

＜内容＞

２型糖尿病自然発症モデルラットを用いて従来の可視領域の光学顕微鏡に加え，紫外領域光における紫外線顕微鏡の観察からエビデンスを構築し２型糖尿病変組織特異的指標の検索を行い，その臨床応用の可能性を検討する。

４．履修科目

科　目		授　業　科　目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び,将来基礎研究と臨床現場との融合を担う人材育成に役立てる。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育･研究者に求められる教育観や教育方法の在り方,エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	生体検査科学特講	2	正常組織と異常組織とについて病理組織形態学的差異,紫外線顕微鏡画像取得,各種マーカー免疫染色等おける解析方法等を習得する。
		生体検査科学特講演習（核 DNA 量・面積測定法，紫外線顕微鏡の光学特性と癌の画像解析）	2	従来の可視領域の光学顕微鏡像と紫外領域光における紫外線顕微鏡像及び電子顕微鏡像の相違点を考慮して２型糖尿病変に関する研究テーマを討論する。
特別研究		生体検査科学特別研究	6	研究課題のとおり
		計	１２	

研究課題	２型糖尿病自然発症モデルラットにおける腎不全病変の特異的解析		
主指導教員	生体検査科学領域担当教員	副指導教員	生体検査科学領域担当教員

履修例－８－

総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域の履修例１

１．対象学生

修士課程を修了した理学療法士で，修了後は，臨床において指導的役割を果たしていくことを希望する現職者

２．志望理由

大学院修士課程を修了した理学療法士で，現在一般病院においてリハビリテーション部の責任者の立場にある。最近多くの病院において医療経済改善の目的で在院日数の短縮が求められているが，担当患者の中には骨折を受傷する高齢者が多く，手術後のリハビリテーションには多大な日数を必要とするのが現状である。しかし厚生労働省の方針により，今後更なる在院日数の短縮を求められることが予想される。そこで博士課程への社会人入学を果たして，高齢者に対して短期間で機能の向上を図ることができる術後のリハビリテーションのための医学的知識と基礎技術の習得を希望する。

３．研究課題

『高齢の骨折術後患者の在院日数短縮へ向けたクリティカルパス作成に関する研究』

＜内容＞

本研究では，高齢者の術後リハビリテーションの段階で入院期間が長期化する要因を解明して，在院日数短縮に向けた効果的なクリティカルパスの作成を目指す。高齢の骨折手術後患者では，受傷前の生活環境，身体機能，個人の有している合併症が患者一人一人において様相を全く異にしているため，術後のリハビリテーションにおいて現在作成されているクリティカルパスの使用は極めて困難である。そこで，高齢者の術後のリハビリテーションの妨げとなる因子を，看護，医療，介護，福祉，リハビリテーションの多方面から分析して，多くの患者に効果的で，かつ簡便に使用できるクリティカルパスを作成する。

４．履修科目

科　目		授　業　科　目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び,将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育･研究者に求められる教育観や教育方法の在り方,エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	リハビリテーション科学特講	2	老年者の健康･体力の保持･増進と生活の質（QOL）の向上に焦点を当て，リハビリテーション科学の立場から，インタープロフェッショナルな連携の理論的構築,およびこれまでの経験的に行われてきた診断･治療･ケアについて,その有効性を科学的に検証し，エビデンスの蓄積の観点から専門性を深める。
		リハビリテーション科学特講演習（老年者の障害に対する理学療法推論過程）	2	高齢者の骨折術後のリハビリテーション阻害因子を看護，医療，介護，福祉，リハビリテーションの多方面から分析するための最新の知見を文献等から知る。すでに明らかな阻害因子を組み込んだクリィティカルパスを試作し，具体的事例に試行し，特別研究に必要な研究方法等を検討する。
特別研究		リハビリテーション科学特別研究	6	研究課題のとおり
計			１２	

研究課題	高齢の骨折術後患者の在院日数短縮へ向けたクリティカルパス作成に関する研究		
主指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員	副指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員

履修例－９－

総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域の履修例２

１．対象学生

理学療法士の資格を有し，介護老人保健施設に勤務している，修士課程を修了した現職者

２．志望理由

理学療法士の資格取得後，3年間老健施設に勤務し，社会人として保健学専攻修士課程に在籍して脳血管障害に対する運動療法に関する修士論文を作成した。しかし歩行障害の改善には，運動療法の側面からだけでは対処できない部分が多く，補装具や生活環境などの様々な側面からのアプローチが必要となる。特に日常生活における移動手段として歩行を実用化させるためには，補装具の果たす役割は大きく，その効果を科学的に解明する必要性を感じたため，博士課程に入学して研究を深めることを希望する。博士課程で得た多くの知識を基に，将来は教育者・研究者への道を志したい。そのため，指定規則に定められている教育学関連の選択科目４単位の修得も希望する。

３．研究課題

『脳血管障害の歩行障害に対する装具治療の効果の科学的根拠に関する研究』

＜内容＞

本研究では脳血管障害の歩行障害に対する装具治療の効果について検討し，その科学的根拠について解明を目指す。現在，脳血管障害の歩行障害に対しては運動療法が中心に行われているが，実用的な歩行を再獲得できるまで歩行障害を改善させるには限界がある。そこで装具療法が併用されることになるが，その効果と膝関節や足部の機能異常の種類や程度との関連性については，まだ十分解明されていない。そこで，科学的根拠に基づいた装具療法を確立することを目的として，本研究を実施する。

４．履修科目

科　目		授　業　科　目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び,将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育･研究者に求められる教育観や教育方法の在り方,エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	リハビリテーション教育学特講	2 (選択)	臨床実習指導者あるいは養成校の教員として将来的に学生にリハビリテーションに関連する知識や技術を教育する,あるいは臨床で患者の教育や指導に必要な教育に関連する知識を修得する。
		リハビリテーション教育学特講演習	2 (選択)	教育実践技術の中心的位置を占める講義等をデザインするための知識と技術を修得する。また，臨床実習指導者として学生に臨床の知識や技術を教育する場合に必要となる教授方法を修得するために必要な教育に関連する知識を修得する。
		リハビリテーション科学特講	2	脳血管障害の装具治療の分野で,リハビリテーションにおける予後予測や評価に関する科学的根拠について最新のデータを基に理解を深める。
		リハビリテーション科学特講演習 （障害者の機能予後予測・体力評価と補装具）	2	リハビリテーションにおける機能予後予測や障害者の体力評価,補装具に関連する研究課題を設定し,信頼性と妥当性を重視した科学的根拠に基づいた研究内容について多角的に考える。
特別研究		リハビリテーション科学特別研究	6	研究課題のとおり
		計	１６	

研究課題	脳血管障害の歩行障害に対する装具治療の効果に関する科学的根拠に関する研究		
主指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員	副指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員

履修例－10－

総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域の履修例３

１．対象学生

作業療法士の資格を有し，介護老人保健施設に勤務している修士課程を修了した現職者

２．志望理由

専門学校卒業後５年間，総合病院にて作業療法業務に従事し，その間に放送大学において学士を取得した。その後，地元の介護老人保健施設に転職し５年経過した現在では指導者的な存在として活躍しているが，寝たきり高齢者に対する作業療法研究の必要性を痛感するようになった。そこで大学院修士課程に社会人入学し，寝たきり予防・改善に関する作業療法研究を行った。この研究活動を通して更に高齢障害者の作業療法の効果研究を進展させることを希望して博士課程入学を志願した。また，最近は施設の管理運営にも深く関わっており職域を越えた広範な知識や指導技術が要求されているため，博士課程で得た知識を施設の管理運営に発揮したい。

３．研究課題

『日常生活の活発化が高齢者の健康体力の増進に及ぼす生理的効果』

＜内容＞

博士課程の研究では，寝たきりになることを予防したり，寝たきり状態から抜けだし，心身の健康を回復してＱＯＬの高い生活を獲得するための生活指導について，インタープロフェッショナルに探求することを目的とする。本研究は，臥床傾向にある虚弱な高齢者に日常生活動作の実践，趣味活動，レクリエーション活動などを活発に行うことによって心肺機能，筋力，知的能力等に及ぼす生理的効果を測定し，高齢者の健康・体力増進，ＱＯＬ向上のための支援の効果を検証することを目的とする実験的介入研究である。

４．履修科目

<table>
<tr><th colspan="2">科　　目</th><th>授　　業　　科　　目</th><th>単位</th><th>研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容</th></tr>
<tr><td rowspan="4">講義・演習</td><td rowspan="2">共通科目</td><td>インタープロフェショナルワーク論</td><td>1</td><td>多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び,将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。</td></tr>
<tr><td>教育・研究者育成コースワーク</td><td>1</td><td>保健学領域における教育･研究者に求められる教育観や教育方法の在り方,エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門科目</td><td>リハビリテーション科学特講</td><td>2</td><td>各種の作業活動の実践が老年者の陥りやすい廃用障害を防ぎ,更なる心身機能,ＱＯＬの向上に役立つことをインタープロフェッショナルワークの視点に立ち，エビデンスに基づいて学ぶ。</td></tr>
<tr><td>リハビリテーション科学特講演習（老年者の日常作業活動と健康増進支援方法）</td><td>2</td><td>広範囲な学問領域の文献講読を通して,作業活動と老年者の心身の健康･体力の関係に関するエビデンスを蓄積する。また活動性の高揚による健康･体力増進の支援方法,理論構築の手法を学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別研究</td><td>リハビリテーション科学特別研究</td><td>6</td><td>研究課題のとおり</td></tr>
<tr><td colspan="3">計</td><td>１２</td><td></td></tr>
</table>

研究課題	日常生活の活発化が高齢者の健康体力の増進に及ぼす生理的効果		
主指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員	副指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員

履修例－11－

総合リハビリテーション科学領域

総合リハビリテーション科学領域の履修例４

１．対象学生

修了後は作業療法学分野で教職に就くことを希望している単科精神科病院勤務の社会人

２．志望理由

作業療法士の資格を有し修士課程を修了した現職者で，作業療法士として民間の単科精神科病院に勤務し，精神科作業療法，デイケア，生活技能訓練（SST）などを通じて，統合失調症患者を中心とする精神疾患患者の社会復帰治療に従事している。しかしながら，実際の精神科病院での勤務を通じて，精神科作業療法学分野においてインタープロフェッショナルワーク，チーム医療に関する専門知識を身につける必要性を実感し，この分野における研究意欲が生じると同時に，この分野に従事する作業療法士の育成のために尽力したいと考えるに至った。博士課程修了後は大学等において教育者としての業務に就くことを希望している。そのため，指定規則に定められている教育学関連の選択科目４単位の修得も希望する。

３．研究課題

『インタープロフェッショナルワークの実践による長期入院精神疾患患者の自立支援に関する研究』

＜内容＞

統合失調症を主とする慢性期の入院患者においては，その多くが本人と家族の高齢化および社会的受入体制の不足などの理由から，いまだに施設内にとどまっているものが多いという現状である。年単位の長期入院生活を送っている精神疾患患者の社会復帰を促進するためには，作業療法士のみならず各専門医療職の連携によるチーム医療が不可欠となる。博士論文では，精神科病院に長期入院となっている統合失調症を中心とする精神疾患患者を対象に，インタープロフェッショナルワークの視点から，個々の精神状態に応じた生活障害の改善と自立支援の方策を明らかにすることを目的に研究を進める。

４．履修科目

科目		授業科目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェショナルワーク論	1	多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び，将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育･研究者に求められる教育観や教育方法の在り方，エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	リハビリテーション教育学特講	2 (選択)	臨床実習指導者あるいは養成校の教員として将来的に学生にリハビリテーションに関連する知識や技術を教育する，あるいは臨床で患者の教育や指導に必要な教育に関連する知識を修得する。
		リハビリテーション教育学特講演習	2 (選択)	教育実践技術の中心的位置を占める講義等をデザインするための知識と技術を修得する。また，臨床実習指導者として学生に臨床の知識や技術を教育する場合に必要となる教授方法を修得するために必要な教育に関連する知識を修得する。
		リハビリテーション科学特講	2	現代社会における様々なメンタルヘルスの課題，作業療法を中心とする精神科リハビリテーション科学の近年の動向，社会精神医学分野における最新の知見について学ぶ。
		リハビリテーション科学特講演習（統合失調症･てんかん患者の QOL 向上と支援の在り方）	2	統合失調症を中心とする精神疾患患者に対する自立支援と生活障害の改善をテーマに，精神科リハビリテーション科学分野に関する最新の論文及び同分野の近年の動向に関する資料の講読を行う。
特別研究		リハビリテーション科学特別研究	6	研究課題のとおり
		計	１６	

研究課題	インタープロフェッショナルワークの実践による長期入院精神疾患患者の自立支援に関する研究		
主指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員	副指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員

履修例－12－

＜被ばく医療コース＞看護学領域

看護学領域の履修例

１．対象学生

本学博士前期課程被ばく医療コースを修了した看護職者で，修了後，被ばく医療に関連した臨床での指導的な役割を果たしていくことを希望する現職者

２．志望理由

看護系大学を卒業後，急性期病棟と救急部門の看護師として勤務し，病院内の被ばく医療体制の整備を行うチームに所属している。病院で放射性物質による汚染を伴う傷病者の受入れをはじめとする一連の被ばく医療体制の整備とスタッフ教育に携わる中で，放射線や被ばく，放射線防護に関する専門性の高い知識や技術を修得したいと考え，2年前に本学博士前期課程被ばく医療コースに入学した。そこで，被ばく医療に携わる医療スタッフの放射線に関する知識や認識，被ばく医療に向き合う姿勢の調査を行い，修士論文としてまとめた。この中で，被ばく医療の教育ができる人材の不足と教育のシステム化の必要性を提言した。今回，医療スタッフに対する被ばく医療教育プログラムを考案し，試行と評価を行い，教育プログラムの開発を目指す研究を行いたいと考えている。

３．研究課題

『緊急被ばく医療に携わる医療者への被ばく医療教育プログラムの開発』

＜内容＞

緊急被ばく医療に携わる可能性がある医療スタッフへの標準化された被ばく医療教育プログラムの提言を目指し，医療スタッフに必要とされる知識・技術等の能力の抽出，教育内容の精選，教育プログラム案の構築，プログラム案の試行，プログラム及び教育効果の評価を経て，被ばく医療教育プログラムの開発を行う。

４．履修科目

科　目		授　業　科　目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	先進被ばく医療	1	被ばく医療に必要な基礎的知識を確認し，その上に実際の現場に必要な，高度な情報および技術を習得する。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育･研究者に求められる教育観や教育方法の在り方，エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	基礎・実践看護学特講	2	被ばく医療における看護に必要な放射線や被ばく，人体影響，放射線防護，放射線リスクコミュニケーション等，幅広い領域を俯瞰する。
		看護学特講演習	2	研究課題の設定，文献検索及び方法論の選択，研究遂行のための手技等について修得する。特に特定の看護実践における能力の抽出方法や教育プログラムの評価方法について理解を深め，特別研究の遂行に必要な諸能力を修得する。
特別研究		看護学特別研究	6	研究課題のとおり
		計	１２	

研究課題	緊急被ばく医療に携わる医療者への被ばく医療教育プログラムの開発		
主指導教員	看護学領域担当教員	副指導教員	放射線技術科学領域担当教員

履修例－13－

＜被ばく医療コース＞放射線技術科学領域

放射線技術科学領域の履修例

１．対象学生

本学修士課程から進学し，修了後，放射線影響関連の教育・研究機関に就職を希望する学生

２．志望理由

福島第一原子力発電所事故による放射性元素の拡散が起こった。航空機および土壌モニタリングが実施され，放射性セシウムなどの放射性物質の土壌への沈着が確認された。放射性セシウムの沈着量が高いエリアが，福島第一原子力発電所から北西方向に約40ｋｍまで達していた。しかしPuについては，土壌モニタリングでは計測時間が短く，Pu同位体の大部分が不検出とされた。しかし，半減期の長いPuの影響は，後世にわたる可能性が高く，微量といえども軽軽に考えるべきではなく，早期の精密な測定が急務である。そこで，土壌の高精度Pu放射能比分析を行いPuの飛散状況の評価を行いたい。またPuは，放出された放射性セシウムや放射性ヨウ素よりも沸点が高く，異なる挙動を示す可能性があるためPu放射能比と他核種の濃度の関係についても研究したいと考えている。

３．研究課題

『福島第一原発事故由来のプルトニウムの飛散状況の評価』

＜内容＞

福島県内の土壌試料を採取し,陰イオン交換樹脂等を用いてプルトニウムを分離･精製する。α線スペクトロメータ，誘導結合プラズマ質量分析計にて測定をおこない，得られたスペクトルからプルトニウム放射能比を求め，プルトニウムの飛散状況を解析する。

４．履修科目

科　目		授　業　科　目	単位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	先進被ばく医療	1	被ばく医療に必要な基礎的知識を確認し,その上に実際の現場に必要な，高度な情報および技術を習得する。
		教育・研究者育成コースワーク	1	保健学領域における教育･研究者に求められる教育観や教育方法の在り方,エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに，研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	放射線技術科学特講	2	被ばく医療に必要な，放射線事故の歴史，事故のシミュレーション，被ばくを伴った患者の診療，局所被ばくの診断と治療，急性放射線症候群の診断と治療等，幅広い領域を俯瞰する。
		放射線技術科学特講演習（環境放射線測定，生物学的線量測定法）	2	被ばく医療において実際の業務に携わる場合,放射線管理上必須になる，種々の放射線測定法を学ぶ。また，被ばく患者の被ばく線量測定において，重要視されるであろう，生物学的線量測定法の現状について，理解を深める。
特別研究		放射線技術科学特別研究	6	研究課題のとおり
		計	１２	

研究課題	福島第一原発事故由来のプルトニウムの飛散状況の評価		
主指導教員	放射線技術科学領域担当教員	副指導教員	放射線技術科学領域担当教員